清泉女子大学

地域連携・社会貢献報告書2018

2019年5月発行

「清泉女子大学　地域連携・社会貢献報告書2018」刊行にあたって

清泉女子大学　副学長（地域連携担当）　篠原　厚子

清泉女子大学は、スペインで誕生した聖心侍女修道会によって1950年に設立されたカトリック女子大学であり、「キリスト教ヒューマニズム」を建学の精神として掲げ、「まことの知・まことの愛」の追究をモットーとしています。そして、この建学の精神に基づき、少人数教育による人格的ふれ合いを通して、自分自身で深く考え、判断し、決断することのできる女性を育成するとともに、自国の文化と異文化を理解し、地球市民として共に生きる姿勢を育むことを大学の理念としています。

本学では、社会貢献に関する諸活動を、建学の精神や大学の理念を実現するための重要な取り組みと認識したうえで、従来から、生涯教育、ボランティア活動、産学官連携、国際交流等を中心とした地域連携・社会貢献に関するさまざまな取り組みを展開してまいりました。特に、本学における社会貢献活動の柱とも言うべき生涯学習講座「清泉ラファエラ・アカデミア」は、1993年の開講以来、社会人の方々を主な対象として、すでに四半世紀以上にわたり、文化や芸術、英語・スペイン語等について学ぶことができる多彩な講座を開講しております。

最近の主なトピックとしては、2015年3月に、教育・文化、防災、まちづくり等の分野において、かねてから密接な連携体制を構築してきた品川区との間で、地域社会の発展を目的とした包括協定を締結し、行政や企業等との協働によるCSR活動の推進などに力を入れて取り組んでいるほか、2018年3月には、本学が旧島津公爵邸を所有していることが契機となって、鹿児島県との間で地域社会の発展や人材育成等を目的とした包括協定を締結し、学生のフィールドワーク等の学びの機会の創出に向けた新たな連携をスタートさせました。また、大学間においても、2015年12月に東京外国語大学、2017年7月には、品川区内に立地する立正大学との間で、図書館の相互利用をはじめ、単位互換やシンポジウムの共同開催等を視野に入れた協定を締結し、今後の学術交流の促進が期待されるとともに、海外の大学との交流に関しても、欧米、南米、アジア諸国を中心に約40校との協定を締結しており、フィールドワーク等における学生の派遣や外国人留学生の受け入れなどによるグローバル化の一層の進展が見込まれています。

この報告書は、本学がこれまで取り組んできたさまざまな活動を踏まえて、2018年度に実施した主な地域連携・社会貢献活動についてとりまとめたものです。ぜひご一読いただき、本学の係る活動に対する皆様のご理解を深めていただければ幸いです。末筆ながら、これらの活動を通じて、本学に実践的な学びの機会を提供してくださっている関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

目次

社会貢献（生涯学習・講演会等）…… 1

清泉ラファエラ・アカデミア／「土曜自由大学」の開催／言語教育研究所フォーラム2018「やさしいことばでつながる」の開催／公開ワークショップ：貧しさを減らす「正義」って？－平和のための再分配－

社会貢献（地域活性化）…… 3

茨城県観光物産協会との連携PBL-魅力的な着地型観光プランの提案－／品川地域連携による菓子「夢見る清子ちゃん」の開発・販売／大学近隣地域イベントへの課外活動団体学生の派遣／しながわ大学連携推進協議会への参加

社会貢献（教育・福祉）…… 5

豊葉の杜学園　学習ボランティア／日野学園　英語絵本読み聞かせ／日野学園奥庭観察会への協力／中学校からの職場体験生徒の受け入れ／「福祉工場しながわ　パン工房しなふくプチレーブ」による学内販売／児童養護施設「聖フランシスコ子供寮」での絵本ボランティア

社会貢献（国際交流・国際貢献）…… 8

外国人留学生との交流／能楽堂体験イベントへの協力／シリア難民女性の支援を行う「イブラ・ワ・ハイト清泉ガールズ」／東ティモールフェスタへの参加／かわいい日本語サロンの開催／世界難民月間募金・クリスマス募金の実施

社会貢献（その他）…… 11

学生ガイドによる本館（旧島津公爵邸）見学ツアー／品川区関連団体のイベント参加者への本館見学の協力／キャンパスキャストSeoの学生によるエコキャップ活動

地域連携（品川）…… 13

PRキャストによるケーブルテレビ品川への撮影協力／品川区広報誌「しながわ」の企画への協力／災害発生時における五反田駅周辺の帰宅困難者対策／2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた品川区との協働／東京都南部下水道局との連携―下水道の役割紹介―／東京都南部下水道局との連携－下水道施設の現場見学－／品川区男女平等啓発誌「マイセルフ」への編集協力

地域連携（鹿児島）…… 17

鹿児島県とのコラボレーション企画の実施

地域連携（福島）…… 19

福島県で地域活性化支援を行う「福が－る」－清泉祭プロジェクト－／－商品開発プロジェクト－／－サマーキャンププロジェクト－

産学官連携…… 20

南九州カレッジへの参加／「きになる池上線」電車内への「生活名所」提案／東京モノレールとの協働によるInstagramの企画提案

清泉ラファエラ・アカデミア

講座風景-「シスターと読むハリー・ポッター」

講座風景-「江戸文学散歩」

【報告部署】生涯学習センター

【キーワード】社会貢献

【目的・目標】本学が生涯学習機関として、社会人等の一般的教養や専門的知識を高めるための一助となるよう、本学の学問研究の成果を広く社会に還元し、地域社会へ貢献することを目的としています。

【内容・成果】2018年度は、通常講座を55講座（教養27講座、語学28講座）と一日講座26講座を開講し、延べ2,300人を超える方々からの受講申し込みがあり、10代から80代まで幅広い年齢層の受講生が机を並べて、真剣かつ和やかに講座を楽しんでいる様子が見られました。特に、シスターを講師に迎えた一日講座では、多くの卒業生が受講し、母校に戻るきっかけとなりました。

【改善案・今後の予定】2019年度より、入会金を廃止し、いくつかの割引制度を増設します。これにより、多くの方々に「清泉ラファエラ・アカデミア」に興味を持っていただき、受講生がさらに増加することを期待しています。

「土曜自由大学」の開催

【報告部署】人文科学研究所　キリスト教文化研究所

【キーワード】地域連携　社会貢献　生涯学習

【目的・目標】「品川区」との共催で、春のコースは「人文科学研究所」、秋のコースは「キリスト教文化研究所」が担当し、本学において各分野の専門家の講義を一般の方に無料で聴講いただくという趣旨のもと、春は5月、秋は10月の土曜日に各々2回の公開講座を開催しています。

「土曜自由大学」公開講座の様子

【内容・成果】第36回春のコースの第1回（5月12日）は、「美術史上の巨匠」をテーマに企画し、第2回（5月26日）は、自由なテーマで開催した結果、339名の方々にご参加いただきました。また、第37回秋のコースは、「食べる」をテーマに合計2回（10月6日・13日）の講義を実施し、320名の方々にご参加いただきました。いずれのコースも、受講者の方々にとって関心の高い、魅力的なテーマだったようで、多くの受講者の方々にご満足いただくことができたのではないかと思います。

【改善案・今後の予定】受講者の方々からのアンケートの結果を踏まえ、2019年に開催する第37回春のコースの第1回（5月11日）は「ラテンアメリカ文学」、第2回（5月25日）は「日本の怪異」をテーマとした講座を開催します。また、第37回秋のコースも企画中です。

【受講者の感想】「土曜自由大学はテーマが多岐にわたっていることが魅力です。全然、知らなかったことを知ることは楽しいことです」、「毎回楽しみに参加しています」、「今回が初めての受講でしたが、大変興味深いものでした。また受講したいです」、「このような創造的、独創的な講座を今後も続けていただけることを期待しています」（春のコースより）

言語教育研究所フォーラム2018「やさしいことばでつながる」の開催

フォーラム2018チラシ

【報告部署】言語教育研究所

【キーワード】社会貢献　公開フォーラム

【目的・目標】2020年には、東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されており、大勢の外国人観光客の訪問が見込まれるなど、外国の方々とのつながりがますます身近になっています。こうしたなか、日本語が母語ではない人々にとって、わかりやすい日本語とはどのような言葉なのかといった点を意識しながら、「やさしい日本語（ことば）」についての理解を深めます。

【内容・成果】内容は、講義と参加型アクティビティの二部構成により実施しました。講義では、本学教員によるやさしい日本語とやさしくない日本語の概要説明を行ったほか、学生による学内で行われている言語活動の発表を行いました。アクティビティでは、実際に英語とスペイン語をやさしい日本語に訳し、会場の参加者の皆さんとその内容を共有しました。参加者からは、「良い環境を作っていくためにはやさしい日本語でのコミュニケーションは必要だと思いました」といった感想をいただきました。

【改善案・今後の予定】この活動は、2016年度から隔年開催となり、次回開催は2020年度の予定となっています。2020年度の企画内容等については、今後検討してまいります。

アクティビティで英語・スペイン語を訳す参加者

公開ワークショップ：貧しさを減らす「正義」って？―平和のための再分配―

【報告部署】地球市民学科

【キーワード】平和　知的財産の共有　意見交換

【目的・目標】公開ワークショップを開催するにあたり、社会人及び大学受験を考えている高校生に広く広報し、地球市民学専攻と地球市民学科、そして清泉女子大学の存在を知ってもらうことを目的としています。

【内容・成果】2018年12月8日、地球市民学専攻及び地球市民学科の主催による「公開ワークショップ」を本学で開催しました。このワークショップでは、ある特定のテーマが提示され、それに対して自分はどのような立場に立つのかを表明したうえで、意見交換をしていただきました。別のアクティビティでは、各グループが架空のコミュニティ地域で生活する住民（各々の収入や世帯数等は異なります）であると仮定し、コミュニティが税金を支払うことを前提としたうえで、無料でどの施設や交通機関を利用したいかといった点について、話し合いを行いました。その後、どの住民がどれだけ税金を負担すべきかという議論なども行い、これらの議論を通じて、参加者同士の活発な意見交換が行われ、さまざまな視点からの意見を聞くことができました。

【改善案・今後の予定】2019年度以降もこうしたワークショップを開催するかどうかは未定ですが、地球市民学科及び地球市民学専攻として、引き続き地域に開かれた学びの場を提供してまいります。

【参加者の感想】「このワークショップを通じて富の再分配について考えさせられました。今回ワークショップに参加したおかげで、日々の生活の中では気付けないことに気付くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。またこのようなワークショップがあれば参加したいと思います」（社会人参加　矢田紀子）

講師説明風景

茨城県観光物産協会との連携PBL-魅力的な着地型観光プランの提案ー

【報告部署】清泉PBLチーム

【キーワード】地域連携　産学官連携　地域活性化

【目的・目標】茨城県の酒造会社など、企業の課題に対する解決策、魅力ある着地型観光の提案をめざしています。

【内容・成果】茨城県観光物産協会と連携したＰＢＬチームの活動で本学から学生2名が参加しました。具体的には学内での2回のオリエンテーションを経て、8月10日に実際に岡部酒造様の見学を行い、8月24日に活動報告をしました。報告会では、岡部酒造を中心とした着地型観光プランの企画提案を行い、提案内容の一部を岡部酒造様に採用していただきました。

【改善案・今後の予定】今回の企画は、茨城県観光物産協会に本学の卒業生がおり、常陸太田市という土地が本学の授業でゆかりのある土地であることから、連携がスタートしました。次年度は、今回の経験を踏まえ、同じように卒業生が活躍している、秩父郡横瀬町の観光PRを検討するPBL活動を行政と連携しながら実施する予定です。

【参加学生の感想】「卒業後は企業で働くことしか選択肢にありませんでしたが、今回コーディネーターをしてくれた卒業生のように、いろいろな経験をしてそれをキャリアに生かしながらお仕事をされている様子をうかがい、「働く」ということの多様性を知ることができました。また、茨城県の魅力に触れて、これからは度々訪問したい大好きな土地になりました」（文化史学科3年）

岡部酒造様での見学会の様子①

岡部酒造様での見学会の様子②

品川地域連携による菓子の開発・販売

【報告部署】ボランティアラーニングセンター

【キーワード】社会貢献　地域連携　国際社会貢献　フェアトレード

【目的・目標】地元の企業等との協働による商品開発を通して、地域の課題解決に継続的に取り組み、地域の活性化と学生の成長をめざします。また、学生が地域社会の一員であることを意識し、年齢や立場を超えたさまざまな方々との協働を経験することの意義を大切にしています。

【内容・成果】本センターとキャンパスキャストSeoの学生は、食の大切さを伝える「NPO法人みんなの食育」、障がい者の方々の就労支援と相互援助を行う「社会福祉法人福栄会かもめ第一工房」との協働により、東ティモール産のフェアトレードコーヒーを使用したクッキー「夢見るかもめの清子ちゃん」の企画、制作及び販路の開拓を行いました。2019年2月23日（土）には、品川区が実施した「地域でつながるみんなの暮らし展」に参加し、オリジナルコーヒークッキーの紹介と販売を行いました。

【改善案・今後の予定】2015年度からスタートしたこのプロジェクトは、福島県の有機栽培の錦糸かぼちゃを使用したマドレーヌ、品川区のトット文化館の野菜を使用したクッキー、本学設立母体の聖心侍女修道会が国際貢献活動をされている東ティモール産のコーヒーを使ったクッキーへと発展してきました。今後は、2018年度の活動の振り返りを協働団体の方々と一緒に行えればと考えています。また、オリジナルコーヒークッキーを品川土産として登録し、大学のラファエラショップでギフトセットとして販売ができればと考えています。

【参加学生の感想】「コーヒークッキーは、NPO法人みんなの食育様、社会福祉法人福栄会かもめ第一工房様のご協力を得て、話し合いを重ねながら完成したものです。大学と地域のつながりを深める活動に参加し、微力ながらも貢献できたことは、学生生活の中での宝物になりました」（日本語日本文学科4年　桐岡怜未）

コーヒークッキーとオリジナル冊子

「地域でつながるみんなの暮らし展」に参加しました

大学近隣地域イベントへの課外活動団体学生の派遣

【報告部署】学生課

【キーワード】社会貢献　地域連携

【目的・目標】大学の近隣地域で季節ごとに開催されているイベントに課外活動団体の学生が参加することで、本学の魅力を地域の方々に知っていただくとともに、地域に開かれた大学として地域社会に積極的に貢献していきます。

【内容・成果】「五反田夏祭り2018 ～GOTANDA Summer FESTIVAL～」（通称「ゴタフェス」）では、ＪＲ五反田駅ロータリーに設置されたステージで、フォルクローレ・サークルとフラメンコクラブが発表を行い、清泉YMCAが運営ボランティアとして参加しました。また、「御殿山さくらまつり2018」では、チアリーディング部S.S.S.と管弦楽部が発表を行いました。いずれのイベントにおいても、地域の方々に普段の活動の成果を見ていただくことにより、学生の成長と課外活動の活性化につなげることができました。

ゴタフェス2018のポスター

【改善案・今後の予定】「御殿山さくらまつり」は、2019年度も同時期にイベント開催が予定されており、すでに4～5団体の出演が決定しています。

【参加学生の感想】「ボランティアスタッフとして参加させていただき、会場内の整理誘導、カキ氷の販売を行いました。国際色豊かなダンス・格闘技のパフォーマンスやバンドのライブステージがあり、さらに五反田の飲食店も数多く出店していて、とにかく大盛り上がりでした。五反田ってこんなにアツい町なんだ！と、改めて五反田の魅力を知りました。いつも利用している五反田を盛り上げるお手伝いをできたことが嬉しいですし、私たちのサークルも、もっと地域の方と関わることができるボランティア活動をしたいと思うようになりました」（ゴタフェス参加者）、「桜が舞い散る中での演奏はとても新鮮で、楽しく演奏をすることができました」（御殿山さくらまつり参加者）

しながわ大学連携推進協議会への参加

【報告部署】学生課

【キーワード】社会貢献　地域連携

【目的・目標】品川区と本学の包括的な連携のもと、教育・文化、健康・福祉、産業・観光、環境、まちづくり等の政策で協力し、品川区における地域社会の課題解決や大学の教育・研究機能の向上を図り、地域社会の発展に貢献することを目的としています。

【内容・成果】品川区内の魅力を発信するフリーペーパー「しながワールド」の発行に協力し、品川区内で配布しています。また、他大学の学生と地域貢献活動に関する学生同士のディスカッションを実施し、品川区の施策に対して学生の視点からの提案を行うとともに、毎年開催される「しながわECOフェスティバル」への出展により、子どもたちが遊びながら楽しめる場所を提供し、大学紹介パネルの展示等も実施しました。

「しながわECOフェスティバル」に参加した学生たち

【改善案・今後の予定】このプロジェクトは、学生会執行委員会の学生が交代で参加しているため、学生の継続的な参加が難しいといった課題がありますが、上級生が責任を持って下級生を指導しながら、今後も積極的に協力していきたいと思います。

【参加学生の感想】「他大学の学生といろいろな話し合いを行い、協働できて楽しかったです」、「品川区に通学していても、今まで知らなかった名所がたくさんあることがわかり、商店街の魅力なども再発見できました」

豊葉の杜学園　学習ボランティア

【報告部署】ボランティアラーニングセンター

【キーワード】社会貢献　地域連携　教育支援

【目的・目標】教員をめざす学生向けに、現場での体験学習の場を提供します。豊葉の杜学園の地域コーディネーターの方々と連携して、地域に根ざしたボランティア活動を継続することを目標にしています。

【内容・成果】豊葉の杜学園、小・中一貫校にて、先生方や地域コーディネーターの方々からご指導をいただきながら、先生方と一緒に授業の運営を行いました。このように責任をもって生徒たちと対応するため、教員をめざす学生たちの自信につながり、教員としての資質に向き合うための良い機会になりました。

【改善案・今後の予定】本学で実施している教職科目の授業に、学校の地域コーディネーターの方々にお越しいただき、学生たちに直接t説明していただく活動を今後も継続していきます。また、その際には、地域コーディネーターの方々にセンターにもお越しいただきたいと考えています。

【参加学生の感想】「問題がわからない子への教え方や、集中できない子への声かけのやり方などを学ぶことができました。また、授業以外での児童への声かけの仕方は、大学で勉強しているだけでは学べないことなので、このボランティアを経験できてよかったです」（日本語日本文学科１年　玉木晴香）

授業風景

先生方と一緒に授業を行うボランティア学生

日野学園　英語絵本読み聞かせ

【報告部署】ボランティアラーニングセンター

【キーワード】社会貢献　地域連携　学習支援

【目的・目標】この活動は、教員をめざす学生たちが、品川区立日野学園の地域コーディネーターの方々の指導のもと、小学生への読み聞かせのための絵本の選択から英語での教材作り等を行い、小学生の学習支援を通じて自らも成長することを目的として行っているものです。

【内容・成果】日野学園の小学生に向けて、英語での絵本の読み聞かせやクイズなどを工夫して、楽しく英語に親しむことができる授業を学生が企画し、実施しました。教材の作成や授業展開を工夫しなければならず、また、責任をもって対応しなければならないため、苦労も多いですが、参加した学生にとっての成長や自信につながるとともに、教育の現場での学習支援に関する貴重な体験をさせていただきました。

小学校での活動の様子

【改善案・今後の予定】よりよいクラス作りのために絵本の選択と教材の作成に関する質の向上や工夫も求められていますので、本学の教員の指導も仰ぎながら、地域コーディネーターの方々との連携をさらに深めていきたいと考えています。

【参加学生の感想】「3年間の活動を通してさまざまな人と出会い、人とのつながりを深く感じました。また、自分たちも児童や仲間から学ぶ機会が想像以上にあり、ボランティアは支援ではなく、交わってお互いを知り、価値観を学ぶ場であると実感しました」（地球市民学科3年　的場真奈）

日野学園奥庭観察会への協力

【報告部署】学長室

【キーワード】社会貢献　地域連携　奥庭の開放

【目的・目標】近隣の学校間の連携の促進を目的として、品川区立日野学園の小学1年生の課外授業の場所として、大学の奥庭を開放しています。

【内容・成果】2018年6月26日（火）、10月25日（木）、2019年1月10日（木）の午前中に、小学校1年生の児童と教職員の方々が各回約100名来校し、大学の奥庭において、季節による樹木の移り変わりなどの様子を観察したり、スケッチしたりしました。

奥庭の樹木を観察する児童たち

【改善案・今後の予定】自然の少ない都会に暮らす子供たちにとって、このような活動を通じて自然とふれ合うことは大変有意義であると思われますので、今後も日野学園の奥庭観察会には、積極的に協力していきたいと考えています。

【参加した先生の感想】1月に観察会に参加した子供たちは、お気に入りの木の葉の色の変化や樹皮が乾燥してはげている様子などを、五感を使って観察しました。霜柱ができているところでは、「踏むとザクザクして楽しい」、「土の中の氷ってきれいだね」と笑顔で話している子供たちもいました。夏や秋には見付けることができない「宝探し」ができ、貴重な体験ができました。

中学校からの職場体験生徒の受け入れ

【報告部署】図書館・情報環境センター

【キーワード】社会貢献　地域連携　就業体験

【目的・目標】品川区の中学生に、大学での業務を体験してもらい、社会人としてのマナーやルール、働くことの意義を学び、将来の進路を考える際の参考としてもらうことを目的としています。

【内容・成果】2018年7月10日（火）・11日（水）に、八潮学園の第8学年2名、2019年1月31日（木）・2月1日（金）に、品川学園の第7学年3名の職場体験を実施しました。学内の各部署を回り業務内容を紹介した後、図書館と情報環境センターの業務を体験してもらいました。図書館では、資料の貸出・返却、図書の排架、各自が持参した図書を紹介するためのPOPカード作り等を体験しました。情報環境センターでは、教室のPCの清掃や機器設備の点検等の業務を行いました。

学生スタッフと一緒にPOPを作成

【改善案・今後の予定】生徒たちが積極的に職場体験に取り組めるよう、業務内容等の検討を進めています。生徒たちには、本学で体験する図書館や情報環境センターの業務が、中学ではどのように行われているのかを事前に調査したうえで来校してもらうことにより、中学と大学との業務の違いを考えてもらうきっかけにしたいと考えています。

館内資料の説明を受ける生徒

【参加した生徒の感想】「この仕事を体験して、本を棚に戻す作業が一番大変でした」、「資料が多いので、自分が欲しい資料を探すときは便利だろうなと思いました」、「何十台ものPCを掃除するのはとても大変だと思いました」

「福祉工場しながわ　パン工房しなふくプチレーブ」による学内販売

【報告部署】ボランティアラーニングセンター

【キーワード】社会貢献　地域連携　共生社会　福祉

【目的・目標】障がい者の自立支援を目的としたパン工房「福祉工場しながわ パン工房しなふく プチレーブ」によるパンの学内販売を通して活動の支援を行うとともに、学生たちが日常の中で障がいのある方たちとの交流の場を持つことによる相互理解の促進と共生社会の実現をめざします。

プチレーブによる学内販売の様子

【内容・成果】授業期間中の毎月1回、11：40～12：40、1号館1階ロビーにて、パンの販売を実施しました。販売スペースにはセンタースタッフまたはワークスタディーの学生が同席しました。定番商品に加え、季節を感じられるよう工夫を凝らした商品もあり、学生や教職員からは昼食時間のパンの購入を楽しみにしているとの声があったほか、販売を通して、障がいを持つスタッフとの交流をしている様子も見られました。商品の味や量の評価も高く、2018年度清泉祭や2019年度ガーデンパーティーにも、出店していただきました。

【改善案・今後の予定】定期的に来校していただくことで学内の認知が高まったという利点はあるものの、学内販売が月曜日に限定されており、この日に来校しない学生や教職員が購入できないことが課題であるため、可能な範囲で他の曜日にも販売していただくようにしたいと思います。また、ポスター等で、学内販売の一層の周知に努めたいと考えています。

【参加学生の感想】「プチレーブのパンは学生だけでなく、教職員の方々にも人気です。美味しいパンを通して、プチレーブさんや障がい者の方々の自立支援に関して、皆さんに興味を持ってもらえたら嬉しいです」（思想文化専攻1年 鈴川可奈子）

児童養護施設「聖フランシスコ子供寮」での絵本ボランティア

【報告部署】ボランティアラーニングセンター

【キーワード】社会貢献　地域連携　福祉　キリスト教価値観構築　共生社会

【目的・目標】児童養護施設での活動を通して、子供たちを取り巻く社会問題への気づきや、キリスト教精神に基づいた寄り添いの心と活動を体得することをめざします。

聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会の方と

【内容・成果】毎月土曜日に2回、聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会と本学の学生が、2歳から12歳までの子供たちに絵本の読み聞かせとアクティビティを行っています。このプログラムは初回に、児童養護施設についてのガイダンスがあることが大きな特徴となっており、学生からは、「キリスト教精神に基づいた施設の子供たちの育て方（①神様からいただいた命を大切にすること、②命を生きる力を育てること、③施設が家となり実家となること）がとても大切であると感じました」といった感想が聞かれました。

【改善案・今後の予定】おはなし会は子供たちの成長に寄与するコミュニケーションを重視していますが、施設からは絵本の読み聞かせの質を高めることが求められています。そこで、今後は参加登録している学生が継続して毎月参加できるような日程調整の方法や、事前に絵本の種類やアクティビティを考えておく仕組みを構築したいと考えています。

おはなし会練習風景

【参加学生の感想】「ただ一方的に読み聞かせるのではなく、子供たちと会話をしたり、一緒に体を動かしたりして関わっていくことが楽しかったです。また、活動を通して子供たちの集中力や理解力の成長を感じることができたことが嬉しかったです。4年生になってからは、特に就職活動等で悩むことも多かったのですが、子供たちの元気な顔を見ることで、私自身も元気をもらうことができました」（日本語日本文学科4年　土屋杏奈）

外国人留学生との交流

【報告部署】国際交流センター

【キーワード】国際交流　地域貢献

【目的・目標】品川区NPO、IWC国際市民の会が受け入れているヨーロッパからの留学生が本学を訪問し、日本文化体験と、本学学生（SEISEN AMIGAS）との国際交流を促進します。

【内容・成果】2018年6月には、フランス人学生18名、本学学生21名が参加し、書道やしりとりなどを、7月には、フランス人学生4名、本学学生6名が参加して華道の体験をしました。また、11月には、イタリア人学生5名、本学学生8名が参加して切り絵を楽しんだほか、International Weekのイベント、「マリアッチ」の演奏会にも一緒に参加しました。

【改善案・今後の予定】IWC国際市民の会は、元々本学のボランティアラーニングセンターが関係を深めてきたNPOであり、本学学生がヨーロッパの学生と交流することができる貴重な機会であるため、今後も、年間3回程度の受け入れができればと考えています。また、学生リーダーに企画等をできる限り任せるなど、より一層、学生主体の活動となるよう努めていきたいと思います。

【参加学生の感想】「フランス人の方々と話す機会はなかなかないので、とても新鮮で楽しかったです」（日本語日本文学科1年　大越美萌日）

切り絵を体験するイタリア人学生

華道を体験するフランス人学生

能楽堂体験イベントへの協力

【報告部署】清泉PBLチーム

【キーワード】地域連携　産学官連携　多文化共生

【目的・目標】品川観光協会の主催により、喜多能楽堂で実施した「外国人向け能のワークショップ―ようこそ能楽堂へ―」に企画の段階から参加し、多様な連携先とともにイベントを成功させることを目標としました。

【内容・成果】2019年2月16日（土）に喜多能楽堂で開催されたイベントには、約25名の外国人の方々が参加されました。本学から参加した6名の学生は、まず外国人参加者の皆様を目黒駅から喜多能楽堂までの間を3つのグループに分かれて案内しました。能の歴史を学び、装束、楽器などを体験し、実際に能を鑑賞するというイベント中は、外国人の方々のグループに入り、通訳者のサポートボランティアとして活動しました。これらの活動に際しては、品川観光協会、品川区観光推進課、喜多能楽堂、株式会社ジャパントラベル、品川区おもてなしボランティアの皆様のお力添えをいただきながら、事前のミーティングやフィールドワークなどを重ね、イベントの成功に向けて準備を進めました。

【参加学生の感想】「外国人に対する道案内やサポートだったので、言語の重要性を理解できました。英語をもっと話せるようにならなければいけないと強く思いました」（英語英文学科1年）

能楽堂までのガイドの様子

能装束の体験イベントの様子

能楽堂での一場面

シリア難民女性の支援を行う「イブラ・ワ・ハイト清泉ガールズ」

【報告部署】ボランティアラーニングセンター

【キーワード】国際社会貢献　地域連携　多文化共生社会の構築

【目的・目標】シリア難民女性の手芸や小物を商品開発・販売する活動を通して、他国に生きる女性が置かれた文化や社会情勢について学ぶ機会とします。また、多文化共生社会がどのようにして実現され得るのかを考えるきっかけとすることを目的としています。

【内容・成果】シリア人女性たちに『針と糸』で収入の道を開くプロジェクト「イブラ・ワ・ハイト（アラビア語で針と糸の意味）」に賛同し、現地女性の手芸品を用いて学生たちが商品開発を行います。週1回のミーティングを行い、年2回の学園祭を中心に商品販売を行っています。2018年度より、山本達也教授の指導のもと、年6回イスラム世界をさまざまな専門家の視点から学ぶ勉強会を行っているほか、イスラム文化交流会館（品川区）とも交流を続けています。

【改善案・今後の予定】授業期間中は、イブラ・ワ・ハイトの活動に集中しているので、長期休暇などの機会を利用して研修会やイベント、ボランティア活動を展開し、活動のすそ野を広げていきたいと考えています。

【参加学生の感想】「2018年度は、新たに15名のメンバーが加わり、活動の幅が広がった一年となりました。ガーデンパーティーや清泉祭以外にも、6回の勉強会を開催し、イブラの知名度を上げることができただけではなく、私たちも中東で起こるさまざまな問題についての知識を身につけることができました。今後も活動の範囲を広げ、イブラの活動を多くの方に知っていただけるように頑張っていきます」（地球市民学科4年　森田理恵子）

学園祭に参加したときの様子

イスラム文化交流会館でのお料理教室

東ティモールフェスタへの参加

【報告部署】ボランティアラーニングセンター

【キーワード】社会貢献　国際貢献　国際理解

【目的・目標】この活動は、大学の設立母体である聖心侍女修道会のシスターたちのご指導をいただきながら、フェアトレード活動等を通じて、東ティモールの文化や歴史に対する理解を深め、交流の促進を図ることを目的としたものです。

【内容・成果】聖心侍女修道会が東ティモールの支援に力を入れており、その活動をサポートするため、ボランティアラーニングセンターでは、東ティモール産のコーヒー豆を使ったフェアトレード活動を行っています。また、東ティモールに対する歴史や文化を学び、東ティモール出身の留学生などとの交流を深める観点から、毎年上智大学で開催されるフェスタに参加するなどの活動を行っています。

【改善案・今後の予定】より多くの参加者を募る広報を心がけたいと考えています。

【参加学生の感想】「東ティモールの人々のために活動している方々と直接触れ合えて楽しかったし、とても勉強になりました。今まで未知の国だったのですが、フェスタへの参加を通じて、東ティモールをよく知ることができた素敵な一日でした」（英語英文学科4年　徳光洋美）

東ティモールと日本の絵本を通しての交流グループ

本学のブースにて（東ティモール留学生とともに）

かわいい日本語サロンの開催

【報告部署】ボランティアラーニングセンター

【キーワード】社会貢献　地域連携　多文化共生社会の構築

【目的・目標】ボランティアラーニングセンターと日本語教員課程及び学外の教育関係者が、近隣に在住する外国人の方々のための日本語教室を運営しています。品川区の国際課、地域の日本語教室であるIWC国際市民の会との連携により、学内で多文化共生を実体験できる環境を作ります。

【内容・成果】6～7月、10～12月にそれぞれ4回ずつ、品川区の近隣に在住する外国人女性の方を対象とした日本語学習を「かわいい日本語サロン」と名付けて実施しました。また、かわいい日本語サロンの開催と並行して、4月には日本語学習者の方々、台湾からの留学生を招いてのお花見会、5月と9月には、学生向けの研修会を開催しました。参加者は、本学の留学生を含めて延べ53名でした。日本語教員課程の学生には、日本語を学ぶ初学者の方々と接する貴重な機会となりました。また、資格としての日本語教員課程を履修するだけではなく、日本語教育の現場に対する理解を深めるうえでの貴重な体験となるとともに、外国人の方との交流により、多文化共生の現場に身を置くことができました。

かわいい日本語サロン　クラス風景

かわいい日本語サロンパーティの記念写真

【改善案・今後の予定】2019年度は前期・後期合わせて、8回のサロンを開催予定です。公益財団法人品川国際友好協会、NPO法人IWC国際市民の会との連携を密にし、今後の取り組みを進めていきたいと考えています。

【参加学生の感想】「日本語学習者と日本語で交流することで、今まで何気なく使っていた日本語の難しさや奥深さにふれる機会が増えました。学習者の方々と一緒に日本と日本語を勉強する貴重な時間・貴重な経験となりました」（英語英文学科4年　徳光洋美）

世界難民月間募金・クリスマス募金の実施

【報告部署】ボランティアラーニングセンター

【キーワード】国際社会貢献　キリスト教価値観教育

【目的・目標】世界・国内の諸問題について考え、平和な社会の実現を願いつつ、身近にできる募金活動を通じて、社会に貢献していくことを目的としています。

【内容・成果】6月の世界難民月間と12月のクリスマスに募金活動を行うとともに、募金活動の開始前には勉強会を開催しました。学内に募金箱を設置し、ポスターなども作成しました。募金の使途先を考えることも重要な活動の一つであり、集まった募金を日本カトリック教会の社会活動、救援活動団体であるカリタスジャパンや難民支援協会などに学生が直接届けることで、この活動に参加した学生たちの社会貢献に対する意識や認識が今まで以上に高まりました。

【改善案・今後の予定】学内で募金に対する意識の勉強会などを企画していきたいと考えており、学生たちだけの勉強会で終わらないためにも、NGO関連の専門家を招いた勉強会等も計画していきたいと思います。

【参加学生の感想】「募金活動を通して、寄付の大切さについて学ぶことができました。また、寄付金に込められた思いを感じ、目に見えない人と人とのつながりについても深く考えることができました」（文化史学科3年　亀井萌香）

カリタスジャパンに難民募金を届ける

学内でのクリスマス募金

学生ガイドによる本館（旧島津公爵邸）見学ツアー

【報告部署】学長室

【キーワード】社会貢献　地域連携　文化財の公開

【目的・目標】この活動は、東京都有形指定文化財に指定されている本館（旧島津公爵邸）を一般の方々に広く公開することを目的として行っているものです。本館ガイドを務める学生ガイドが自らの学び舎について知り、ガイドをすることを通じての成長も期待できます。

【内容・成果】一般の方々を対象とした約40分の邸内見学ツアーを春季（4～6月）と秋季（10～12月）の水曜日と金曜日に40回実施し、合計約600名の方々をご案内しました。ツアーに参加した方からは、「文化財の中で勉強できる学生さんたちは幸せですね」という声をいただきました。

本館内をガイドする大谷さん

【改善案・今後の予定】2019年度も、例年通り、春季と秋季に見学ツアーの開催を予定しています。今までは、案内役の学生はガイドのみを担当していましたが、今後は学生に受付を含めた運営全般を担当してもらい、学生が主体となってリードしていく活動にしていきたいと考えています。

【参加学生の感想】「本館の魅力は、それぞれの部屋に凝った装飾があり、これに加えて使いやすさの工夫も施されているところにあります。案内されないと通り過ぎてしまう見どころやエピソードを皆様に紹介できるのが、本館ガイドの醍醐味です。もともと人前で話すことが苦手だったのですが、本館ガイドの活動を続けているうちに、人前で落ち着いて話せるようになったと思います。就職活動では本館ガイドの経験をエントリーシートに書いたり、面接の際に話をしたところ、面接官の方に『大学に文化財があるんですね。大学時代の活動としてもめずらしいですね』と興味を持って聞いていただきました」（英語英文学科4年　大谷弥美）

品川区関連団体のイベント参加者への本館見学の協力

【報告部署】学長室

【キーワード】社会貢献　地域連携　奥庭の開放

【目的・目標】本学では、春季と秋季に実施している大学主催の本館見学ツアー以外には、一般の方々向けの見学会などは行っていませんが、地域連携・社会貢献に関する包括連携協定を締結している品川区との連携の強化を図り、社会貢献活動に寄与することを目的として、本館見学を通して、品川区等の地域交流イベントへの協力を行っています。

【内容・成果】2018年10月8日（月）には、しながわ観光協会主催の「まち歩きツアー」の参加者の方々が、6月4日（月）及び11月12日（月）には、品川区文化観光課生涯学習係が主催する「品川シルバー大学」の受講生の方々が本学を訪れ、東京都指定有形文化財となっている本館や自然豊かな奥庭などを散策されました。

奥庭を散策するイベント参加者の方々

【改善案・今後の予定】今後も品川区との地域連携活動の一環として、できる限り協力させていただきたいと考えています。

キャンパスキャストSeoの学生によるエコキャップ活動

【報告部署】ボランティアラーニングセンター

【キーワード】社会貢献　地域連携　環境　国際社会貢献

【目的・目標】学内に回収ボックスを設置し、学生・教職員の環境への意識を高めることを目的としています。また、学生が主体的に環境問題を考え学ぶ機会となると同時に、活動に関連する団体との連携を経験することで広く学びを得ることをめざしています。

【内容・成果】「キャンパスキャストSeo」の学生が主体となって、週1回のミーティング、月1回の学内回収、エコキャップ運動を推進している一般社団法人「グループMATE」への半期に1回の回収依頼をしています。地域にお住いの方々、地元企業「コベルコ建機株式会社」のご協力をいただきながら、ペットボトルキャップを集め、リサイクル業者への買取によって得られたお金を「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付しています。企業や団体の方々とは、対面での打ち合わせや勉強会を行い、積極的な情報交換に努めています。また、学内への周知として、学園祭や季節のイベントの際にエコキャップアート企画なども行っており、学生たちは、地域の方々との連携による協働が身近な活動に大きな広がりを持たせることができるということを実感しています。

【改善案・今後の予定】基本的な活動は、学内でのエコキャップの回収等の地道な作業であり、達成感や楽しさを感じながら活動できるような工夫が必要となります。そのため、学生の主体性を重視しながら、活動報告の場を創出したり、キャップを使用した新たな試みができるようサポートしたいと考えています。

【参加学生の感想】「キャップという小さくて身近なものであっても、集めることによって世界の問題の解決の一歩となる、ということをこの活動で知りました。一人でも多くの人にこの活動を知ってもらうために、私自身の今までの経験を後輩たちへ引き継いでいきたいです」（地球市民学科3年　佐藤香歩）

エコキャップアートの展示の前で

エコキャップの回収活動

「世界の子どもにワクチンを日本委員会」訪問時の一コマ

ＰＲキャストによるケーブルテレビ品川への撮影協力

【報告部署】広報課

【キーワード】地域連携

【目的・目標】学生広報として登録しているPRキャストの学生が、毎日1名ずつ、ケーブルテレビ品川の番組「まちおこしひとおこし～みんなの品川応援団～」のキャンパスレポーターとして出演することで、品川区の街や人の魅力を発信し、区の広報活動に貢献します。学生も撮影時の地域の方々とのふれあいや、インタビュー等の経験を通して、自身の成長をめざします。

番組撮影風景

【内容・成果】番組は、品川ケーブルテレビ11チャンネルで午後2:45～／4:45～に放送され、その後、品川区の公式YouTubeチャンネルで公開されています。地域の企業や店舗、人など毎月異なるテーマを取り上げ、10月放送分で、本学の学園祭「清泉祭」が取り上げられ、地域の皆さまに周知されました。2012年より継続的に毎月撮影協力を行っており、約50名の学生が出演しました。

【改善案・今後の予定】現在は、学生が出演するにとどまり、学生の立場やアイディアを活かした番組企画の提案などは実現できていないため、今後は学生からのアイディアを定期的に提案するなどの取り組みを通じて、大学と地域の連携が一層深まるような協力体制の構築につなげていきたいと考えています。

品川区広報誌「しながわ」の企画への協力

【報告部署】広報課

【キーワード】地域連携

【目的・目標】品川区報「しながわ」の特集企画である「明治維新150周年 歴史の舞台「品川宿」明治維新 ―そのとき品川は―」の記事作成に協力し、品川区との連携により、区の歴史と文化についての情報を区民の方々に広く伝えます。また、この企画に参加することで得た知識や経験を学生自身の今後の学習に活かします。

広報「しながわ」2018年10月21日号

【内容・成果】2018年9月9日、文化史学科の学生3名が品川歴史館でレクチャーを受け、明治維新までの動乱の時代、歴史の舞台となった区内の史跡見学を行いました。その様子や学生たちのレポートが、2018年10月21日号の広報「しながわ」（発行部数：134,000部）の特集ページに、3ページにわたって掲載されました。また、掲載紙を学内に掲示し、オープンキャンパスの来場者や学生・教職員などに周知しました。

【改善案・今後の予定】現状では、スポットで依頼をいただいた企画への協力にとどまっていることが課題となっているため、品川区との情報交換体制を充実させ、学生ならではの提案や学習成果を盛り込んだ企画を提案するなどして、協力の機会を増加させていきたいと考えています。

【参加学生の感想】「坂本龍馬と品川に関わりがあると知って、ぜひそのゆかりの場所へ行ってみたいと思いました。今回、立会川周辺を訪ねてみて、土佐藩に関連する場所や龍馬の姿を思い起こさせる場所がたくさんあり、その面影から当時をしのぶことができました。坂本龍馬がこの地域を訪れた資料は残っていないと聞いて驚きましたが、資料の発見を期待しています」（文化史学科3年　佐藤すみれ）

災害発生時における五反田駅周辺の帰宅困難者対策

【報告部署】管理課

【キーワード】自然災害　帰宅困難者対策　五反田駅周辺

【目的・目標】大地震等による災害発生時に滞留者が発生した場合を想定し、地域関係者による滞留者支援の対応策・行動手順をルールとして作成します。作成されたルールに基づく訓練実施や訓練で抽出された各種課題を踏まえたルールの見直し等のＰＤＣＡサイクルを継続し、帰宅困難者対策の実効性向上を図ります。

8月21日に開催された第1回協議会の様子

【内容・成果】本学は、品川区防災まちづくり部からの依頼により、2018年8月に設立された「五反田駅周辺帰宅困難者対策協議会」に発足当初より参画し、管理課長がメンバーとして審議に加わっています。2018年度は、8月以降に合計4回の協議会が開催され、五反田駅周辺における滞留支援ルールおよび滞留者支援ルールについての検討を重ねています。

【課題・今後の予定】本学は、地域社会の一員として、災害発生時における帰宅困難者対策に積極的に協力すべきと考えていますが、その一方で、災害発生時の時期や時間帯などによっては、最大1,000人に達する本学学生の安全確保等に限られた人数の教職員で対応しなければならないため、それらの両立が難しい課題です。今後のスケジュールとしては、7月中旬に第5回協議会を開催し、協議会で取り組む対策や行動手順等の確認を行い、9月に予定されている第6回協議会では、行動手順の承認や訓練内容の検討等を行う予定となっており、本学としては、本プロジェクトについても、対応可能な範囲で協力していきたいと考えています。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた品川区との協働

【報告部署】地球市民学科

【キーワード】品川区との協働　2020年東京オリンピック・パラリンピック

【目的・目標】フィールドワークを通して、地域にお住いの方々の生活から日本社会のあり方について学びます。

【内容・成果】地球市民学科の必修科目である「基礎演習Ｉ」は、品川の地域に関連した団体（品川区、品川関連企業等）との連携による諸活動を行っており、2018年度の授業では、品川区オリンピック・パラリンピック準備課との協働による東急線沿線地域に関する「お宝探し」を実施しました。

2019年1月22日に開催された最終成果報告会の様子

【改善案・今後の予定】学生たちが提案する「お宝」をどのような形でオリンピック・パラリンピックとコラボレーションしていくかが、今後の課題となりますので、2019年度もこの授業を通じて、オリンピック・パラリンピック準備課の方々と継続的な連携を図りつつ、課題への検討を進めていく予定です。

【参加学生の感想】「普段、気付かずに通り過ぎているような場所でも、よく調べてみると面白い歴史があったり、地域のみなさんにとっては、なくてはならない場所であったりします。そうした場所の存在を現地で発見できたことに喜びがありました。授業としては、現地でのフィールドワーク以外にも、論文の作成やパワーポイントの準備等もしなければならないので大変なことも多かったですが、これからは自分が住んでいる地域にも目を向けてみたいと思います」（地球市民学科1年）

東京都南部下水道局との連携－下水道の役割紹介－

【報告部署】地球市民学科

【キーワード】地域連携

【目的・目標】今回ご紹介する活動は、正課の授業で東急池上線沿線の「生活名所」を紹介することを通じて、魅力的なまちづくりへの貢献を目的としたものです。

感謝状贈呈式の様子

【内容・成果】地球市民学科の必修科目である「基礎演習Ⅰ」は、品川区をはじめとする地域の関連企業や団体等と連携を行っており、2017年度に実施した授業では、株式会社東急電鉄と連携し、東急池上線の「気になる電車」の中で、学生が発見した沿線近郊の魅力的な場所を「生活名所」と題して紹介しました。その名所の一つが戸越銀座商店街の浸水対策としての下水道の役割でした。この内容を東京都南部下水道局の方々に評価していただき、2018年10月2日（火）、本館1階の泉の間において、この名所を紹介した地球市民学科学生5名（担当教員：鈴木直喜教授）に対して、同局より効果的な情報発信に対する感謝状が贈呈されました。

【課題・今後の予定】下水施設の多くは地下にあり「見えにくい」ため、市民の方々の関心が薄れがちであることから、東京都下水道局では、近年、普段見ることのできない下水道の「見せる化」プランを進めています。特に、下水道への関心が低い「若者」にもっと下水道の重要性を理解してもらうにはどうすればよいかが課題となっているため、今後の活動として、清泉PBLチームで下水道に関わるプロジェクトチームが作れないかどうかを検討しています。

【参加学生の感想】「戸越銀座商店街でのフィールドワークを通して、地域の方々から『貯留管が整備されたおかげで雨が降っても浸水しなくなった』とのお話を何度もうかがいました。下水道が人々の生活を支える生活名所であることを実感することができたうえ、このような名誉ある感謝状までいただき、大変嬉しく思います」（地球市民学科2年　横山こころ）

東京都南部下水道局との連携－下水道施設の現場見学－

【報告部署】地球市民学科

【キーワード】地域連携　インフラ

【目的・目標】今回ご紹介する活動は、正課の授業で東急池上線沿線の「生活名所」を紹介することを通じて、魅力的なまちづくりへの貢献を目的としたものです。

貯留管の内部を見学する学生たち

【内容・成果】東京都南部下水道局から感謝状を授与された学生たちが、フィールドワーク中に下水道の中を見学したいと申し出たところ、同局のご厚意により、2018年10月25日（木）、品川区西品川2丁目にある三ツ木公園内のドロップシャフトと貯留管の浸水対策の現場を見学する機会をいただきました。このたびの現場見学により、地域の重要なインフラである下水道に関する理解を深めることができるとともに、若者世代の下水道に対する関心が低いことを知り、若者向けの下水道の「見せる化」をどのように進めるべきかについて、下水道局の方々と学生が一緒に打ち合わせを行い、今後のプロジェクトのあり方などを模索しました。

【改善案・今後の予定】今後の活動として、清泉PBLチームで下水道に関わるプロジェクトチームが作れないかどうかを検討しています。

【参加学生の感想】「実際に現地を見学させていただき、地下世界の想像以上の大きさにびっくりしましたが、このような施設が私たちの暮らす足元に広がっているのだと思うと、とても感慨深い経験となりました」（地球市民学科3年　佐宗知歩）

下水道局の方々との打ち合わせの様子

品川区男女平等啓発誌「マイセルフ」への編集協力

【報告部署】学生課

【キーワード】社会貢献　地域連携

【目的・目標】品川区男女共同参画センターが春と秋に発行している「マイセルフ」は、自分らしくをコンセプトに、男女平等に関する情報を発信しています。学生たちがこの紙面の編集に携わることを通じて、学生自身の男女平等に対する意識の向上やジェンダー等の社会問題に対する理解の促進を図ることをめざしています。

【内容・成果】「マイセルフ」vol.59号の作成にあたり、近年話題となっているLGBTやジェンダー、デートDVなどの専門家の方に、清泉祭実行委員会の学生たちが取材を行い、2019年春号の特集「誰もが生きやすい社会へ－ジェンダーから人権を考える－」の紙面づくりを担当しました。取材先の決定から取材、編集作業、校正まで一貫して携わり、また、品川区男女共同参画センターが主催の講座にも参加し、記事を執筆しました。今回の取材を通して、さまざまな方の話を聞くことができ、学生の人権意識に対する視野を広げることができました。

学生が特集ページを担当した「マイセルフ」vol.59号

【課題・今後の予定】取材をさせていただく方から魅力ある話を引き出すために、インタビュアーである学生がより一層入念な下調べを行う必要性を感じています。そして、読者が自然な流れで違和感なく読むことができるように、記事をうまく書けるように工夫していきたいです。また、「マイセルフ」がより魅力的な紙面となるようデザイン上の工夫などについても提案することができればと考えています。

【参加学生の感想】「自分の人生や将来を見直すきっかけにもなり、非常に有意義な活動に携わらせていただいていることを光栄に思います」

鹿児島県とのコラボレーション企画の実施

キリシマツツジが咲く奥庭の百円茶屋

【報告部署】学長室・学生課

【テーマ】地域連携　鹿児島県とのコラボレーション企画

【キーワード】地域連携　鹿児島県

【目的・目標】本学と鹿児島県の間では、2018年3月に地域連携・社会貢献の強化等を目的とした包括協定を締結しています。本館とも深いゆかりのある鹿児島県との間で、これまで続けてきたガーデンパーティーや清泉祭でのコラボレーション企画、さらには、現地で行われる体験型学習への学生派遣の継続等を通じて、鹿児島県との地域連携の促進に資するさまざまな活動を展開していきます。

【内容・成果】2018年4月22日（日）に開催したガーデンパーティーでは、本館1階泉の間に鹿児島観光物産コーナーが設置され、奥庭では鹿児島の新茶を楽しめる百円茶屋が人気を集めました。また、清泉祭においては、10月27日（土）に包括連携協定締結記念イベントを開催し、三反園訓鹿児島県知事によるミス清泉候補者への「清泉祭さつま大使」の任命式が行われました。その後、明治維新150年記念講演会として、西郷隆盛とイトさんの曾孫にあたる西郷隆夫氏をお招きして「薩摩の原動力、郷中教育と西郷隆盛の秘話」と題した講演が催され、会場は満席となる盛況ぶりでした。清泉祭では、このほかにも、本館泉の間の鹿児島観光物産コーナーにおいて、「清泉祭さつま大使」が鹿児島県の特産品や地域の魅力等を発信するPR活動を行いました。

三反園知事、吉岡理事長、佐伯学長とミス清泉候補者の記念撮影

大盛況だった西郷隆夫氏の講演会

また、清泉祭実行委員会の活動として、清泉祭に先立ち、食堂において鹿児島フェアを実施し、鹿児島県の食材を活用した特別メニューを提供しました。2018年10月18日（木）には、奄美大島の郷土料理の「鶏飯」、10月25日（木）には、「黒豚とんかつ」が限定で各100食ずつ販売され、あっという間に完売となりました。

【改善案・今後の予定】鹿児島県とのコラボレーション企画は、ガーデンパーティーと清泉祭におけるイベント協力が中心となっていますが、今後は学生のフィールドワークやインターンシップなど、学生の学びに資する活動にも裾野を広げていくことができればと考えています。

鹿児島フェアの特別メニュー「鶏飯」

福島県で地域活性化支援を行う「福が一る」－清泉祭プロジェクト－

清泉祭に参加した「福が一る」の学生たち

【報告部署】清泉PBLチーム

【キーワード】地域連携　産学官連携　復興支援　過疎地対策

【目的・目標】この活動は、「福が一る」と呼ばれる学生たちが、東日本大震災の被災地である福島県いわき市内の「田人町（たびとまち）」を訪問し、都内の大学生ができる地域活性化に向けたサポートを行うことを目的としたものです。

【内容・成果】2018年度は、「清泉祭プロジェクト」、「商品開発プロジェクト」、「サマーキャンププロジェクト」という3つの活動を実施しましたので、ここでは、まず「清泉祭プロジェクト」についてご紹介します。この企画は、「福が一る」が現地を訪問して地元の方から野菜のおいしい食べ方に関するレクチャーを受け、それを踏まえて、10月の清泉祭において、いわき市の野菜を使った「じゃがバター」を提供しました。都内在住の方々に、いわき市の農産物の安全性と生産者の方々について知ってもらう機会になるとともに、お世話になった現地の方々には、清泉祭の様子や売り上げの報告などを行いました。

【改善案・今後の予定】今年度は、「福が一る」の他のプロジェクトと統合して活動を継続していく予定であり、今後もいわき市の農産物の魅力を積極的に発信し、地元の生産者の方々に自信を取り戻していただけるような活動を続けていきます。

【参加学生の感想】「清泉祭終了後に地元の方々に色紙を書き、感謝の気持ちを込めて報告書とともにお送りしたところ、大変喜んでいただき、今も大切に保管してくださっているそうです。これからもこのようなあたたかな交流を継続していきたいです」（地球市民学科1年）

福島県で地域活性化支援を行う「福が一る」－商品開発プロジェクト－

清泉カフェでのいわき市フェアの様子

【報告部署】清泉PBLチーム

【キーワード】地域連携　産学官連携　復興支援　過疎地対策

【目的・目標】学生チーム「福が一る」の活動は、東日本大震災で被災地である福島県いわき市内の「田人町（たびとまち）」を訪問し、都内の大学生ができる地域活性化に向けたサポートを行うことを目的としたものです。ここでは、2018年度に行った3つの活動の一つである「商品開発プロジェクト」についてご紹介します。

【内容・成果】この企画は、「福が一る」が現地を訪問し、地元で栽培されるいちごやブルーベリーなどのフルーツを、大学が運営する「清泉カフェ」に卸し、商品として販売する活動です。2018年度は、年2回の「いわき市フェア」を清泉カフェで開催し、7月の「いちごフェア」、11月の「ブルーベリーフェア」ともに大盛況。多くのお客さまに、いわき市のフルーツの魅力を知っていただく機会となり、カフェの売り上げもアップしました。

【改善案・今後の予定】次年度以降も、フェアを継続するとともに、フルーツを商品として販売できる販路の開拓に努めていきたいと思います。

【参加学生の感想】「いわき市を実際に訪問し、フルーツが大変美味しいことは知っていたので、今回清泉カフェで使用していただき、多くの方にその美味しさを知っていただく機会となったことは大変嬉しいことでした。今後もいわき市に貢献できるよう、市場開拓について検討していきます」（地球市民学科2年）

福島県で地域活性化支援を行う「福が一る」ーサマーキャンププロジェクトー

【報告部署】清泉PBLチーム

【キーワード】地域連携　産学官連携　復興支援　過疎地対策

【目的・目標】学生チーム「福が一る」の活動は、東日本大震災で被災地である福島県いわき市内の「田人町（たびとまち）」を訪問し、都内の大学生ができる地域活性化に向けたサポートを行うことを目的としたものです。ここでは、2018年度に行った3つの活動の一つである「サマーキャンププロジェクト」についてご紹介します。

【内容・成果】この企画は、「福が一る」が、2019年度の夏季の実施を検討している小学生向けのサマーキャンプ（1泊2日）の企画立案を目的として、これに先立ち2018年8月にいわき市田人町（たびとまち）を訪問し、同市教育委員会が現地で開催する小学生向けのキャンプにボランティアとして参加し、参加者の満足度が高いプログラムの実例を学ぶというものです。サマーキャンプを実施する際に、現地企業のサポートが得られた場合には、「畑仕事体験」、「星の観察会」など、地元の魅力満載のプログラムが実現できるため、現地企業との連携を模索したところ、「株式会社旅人」が趣旨にご賛同くださり、このたびの企画へのご協力をいただけることとなりました。

　また、この企画は、補助金の交付対象のプロジェクトでもあることから、今年度中に2つの団体に企画書を提出するなど、2019年度夏季のサマーキャンプの実現に向けて、しっかりとしたベースを作り上げることができました。

【改善案・今後の予定】この企画は、補助金の交付対象のプロジェクトであるため、その結果により予算の見直しが必要となる可能性もありますが、2019年度の夏季に、現地でのサマーキャンプの実施に向けた準備を進めていく予定です。

【参加学生の感想】「現地を訪問してイベントに参加したことで、自分たちの企画についての具体的なイメージを持つことができました。どのようなことに配慮して、イベントを作り上げるのかについて、教育委員会の方から多くのアドバイスをいただいたおかげで、具体的な提案をまとめることができました」（地球市民学科1年）、「補助金を申請するという経験は今までにしたことがなかったので、企画書の書き方や予算配分などに対する考え方や資料の作り方を学べたことは、今後の生活においても参考になることが多く、勉強になりました」（地球市民学科4年）

サマーキャンプ活動中の様子

サマーキャンプ時　テントでの様子

地元企業の方々との打ち合わせ

南九州カレッジへの参加

【報告部署】学長室

【キーワード】産学官連携　鹿児島県　ＪＲ西日本

【目的・目標】この活動は、ＪＲ西日本をはじめとする企業や行政の方々からのサポートやご指導をいただきながら、学生たちが西日本地域を実際に訪れ、現地での体験実習を通じて発見した各エリアの魅力や旅の素晴らしさを情報発信するものです。学生の視点で個人型旅行や修学旅行のプランを企画・提案することを通じて、学生自身の自主性やコミュニケーション能力の向上を図り、将来に向けたキャリア形成にも寄与することを目的としています。

【内容・成果】ＪＲ西日本と南九州3県（鹿児島、熊本、宮崎）が企画する「南九州カレッジ」は、大学生が体験実習などを通じて、学生ならではの視点で現地の観光素材を磨き上げ、修学旅行や個人旅行等のプランを提案する産学官連携の教育プログラムです。東京圏の大学としては、本学が唯一の参加となっており、本学以外には、関西大学、神戸松蔭女子学院大学、和歌山大学、流通科学大学が参加しました。

2018年度は、書類審査と面接を経て選考された6名の学生たちが、9月4日～6日にかけて、2泊3日の行程で、鹿児島県の種子島、指宿、いちき串木野市を訪問し、種子島宇宙センターの見学、砂蒸し風呂体験、薩摩金山蔵でのトロッコ乗車、焼酎蔵見学、おくらソフトやマグロラーメンの実食などのさまざまな体験をしました。

11月11日には中間報告会、12月17日には成果報告会が、いずれも大阪で開催されました。本学が訪問した鹿児島県からは、「温泉・食・体験（かごしまのウェルネス）」が課題として与えられ、成果報告会では、旅行会社、南九州三県（鹿児島・熊本・宮崎）、ＪＲ西日本の方々など、企業や行政の大勢の方々を前にして、『笑う旅には福来る～ココロもカラダもウェルネスサイクルツアー～』と題した観光プランの提案を行いました。

【課題・今後の予定】このプログラムは、ＪＲ西日本が西日本地域の行政と密接な連携を図りながら実施している企画であるため、企業や行政の方々から手厚い指導やサポートが得られる教育プログラムです。参加した学生たちは、このプログラムをやり遂げることを通じて、大きな成長を実感してくれていますので、今後も積極的に参加していきたいと考えています。

種子島の海岸で

天然温泉足湯体験の様子

大阪で開催された成果報告会で発表する学生たち

【参加学生の感想】「南九州カレッジの大きな魅力の一つは、さまざまな学年学科のメンバーが集まることです。得意なことや価値観が多種多様で、お互い刺激しあって学び合ったことが沢山ありました。この関わりは、無為に学校へ通っているだけでは得ることができなかったと思います。また、一番心に残っていることは放課後に集まって行った日々のミーティングです。学校生活を授業とアルバイトと遊びだけで埋めず、この南九州カレッジが入った生活はとても充実していました。今回培った経験は就職活動でも胸を張って言えます。そして、何よりも、学内だけではなく、この南九州カレッジに関わっている方々との素晴らしい出会いがありました。住んでいる場所や仕事は皆バラバラです。そのような人々と真摯に向き合ったことで予想を超えた大きな成果や反響、学びを得ることができて幸せでした」（日本語日本文学科2年　川口真弥、地球市民学科2年　中村莉子、中村美南）

「きになる池上線」電車内への「生活名所」提案

【報告部署】地球市民学科

【キーワード】地域連携　産学官連携

【目的・目標】この活動は、池上線の「生活名所」を提案し、沿線の知名度向上と活性化をめざした取り組みです。

【内容・成果】地球市民学科の必修科目である「基礎演習Ⅰ」では、品川区や区内の企業・団体などと連携しながら、課題解決型の授業を行っています。今回ご紹介するのは、2017年度に私たちが授業を通じて株式会社東急電鉄と連携してまだスポットがあたっていない「生活名所」の提案を行うというものです。東急池上線の沿線地域の「生活名所」を学生ならではの視点で探し出し、その魅力を同社に提案しました。

大学の最寄り駅である五反田駅を通る池上線は、学生たちにとってなじみ深い路線です。グループに分かれて、池上線を利用しながら沿線の街を実際に歩いて探した「生活名所」のうち、12か所が同社から優秀であると認められ、それらを発掘したグループの学生たちの写真紹介が池上線の電車内の中吊り広告のポスターとして紹介されました。掲載されたスポットは、旗の台駅を担当したグループが提案した「旗の台つりぼり店」、「子どものアトリエ造形教室 criar」などで、ポスターは、2018年6月23日（土）から8月20日（月）までの間掲載されました。

「きになる電車」内のポスター掲示の様子

東急電鉄の皆様と学生の集合写真

【改善案・今後の予定】この授業では、今後も地域の行政や企業と連携した取り組みを継続していきます。2019年度は、品川区のオリンピック・パラリンピック準備課との協働による活動を展開します。

【参加学生の感想】「自分たちで考えた提案を、このような形で多くの方々に見ていただく機会を持てたことを大変嬉しく思います。提案したお店の皆さまも大変喜んでくださり、がんばって調べてよかったです」（地球市民学科2年　日下初音）

東京モノレールとの協働によるInstagramの企画提案

【報告部署】清泉PBLチーム

【キーワード】地域連携　産学連携

【目的・目標】この活動は、東京モノレール株式会社の地域連携課が取り組んでいる同社の公式Instagramを20～30代の女性を中心とした多くの若者に知っていただき、利用率の向上につなげることをめざして、大学生ならでは視点で企画の提案を行うものです。

【内容・成果】7月から9月にかけて、4名の学生が東京モノレール株式会社を訪問して打ち合わせや職場見学などを行い、同社のInstagramに関する企画の提案を行い、その提案内容を同社のInstagramに掲載していただきました。また、モノレールの各駅で配布している「ものここ」（年4回発行、2019年春号）というフリーペーパーに、清泉PBLとの協働についての特集記事を掲載していただきました。特集の記事は、学生と企業担当者、編集会社が何度も意見交換を重ねて完成したものです。

【改善案・今後の予定】2019年5月頃、同社の担当者の方と、今年度のプログラムについての打ち合わせを行うことを予定しています。

【参加学生の感想】「企業内の会議への参加や職場見学、打ち合わせ、発表会など、全てが初めてのことばかりで緊張しましたが、皆で何度も話し合い、検討した提案を採用していただき、本当に嬉しく思いました」（スペイン語スペイン文学科1年）

モノレール内設備見学の様子

広報企画の発表会の様子

清泉女子大学
地域連携・社会貢献報告書2018

発行

清泉女子大学　地域連携推進本部

〒141-8642
東京都品川区東五反田3-16-21
TEL：03-3447-5551
FAX：03-3447-5493
電子メール（学長室）：
gakucho-shitsu@seisen-u.ac.jp

2019年5月